

ただいま
聴講者
募集中

2021 北村智恵公開講座

ショパン作品が求める「テクニク」とは

ショパンは、同時代のどの音楽家よりも「ピアノ」という楽器のメカニズムを知り尽くした、「ピアニスト」であり「作曲家」でした。そしてその点においては、その後も彼を越える人はいないと言われていています。

そんなショパンのピアノ作品においては、ただ指がよく回る、速いテンポで弾ける、といった指の「メカニク」だけでは彼の求めたもの(楽譜に託されたもの)を表現することはできません。

ショパンにとってのテクニクとは、彼の作品を深く「読み取る」ことから始まり、書かれた内容を、「求め通りの音」に具体化することのすべて——としか言いようがありません。

今回は、あえて多くの人達が聴き馴れている作品を何曲か選び、ショパン自身が求めていたであろう彼にとっての本当の「テクニク」とは何だったのかということと共に検証してみたいと思います。

使用テキスト

「ショパン：ワルツ集 ナショナルエディション・エキエル版 A シリーズ」(お知らせ：日本語版が全音楽譜出版社より刊行されました)

■日時

2021年10月17日(日) 14:00～

■会場

カワイ梅田 コンサートサロン「ジュエ」

■受講料

●ショパン協会会員：無料

●一般：2,000円 ●学生：1,000円

北村 智恵 (音楽教育家)

音楽教育家。ピアノ指導、楽譜の監修・校訂、作・編曲などを手がける傍ら、音楽雑誌への執筆や全国各地でのピアノ指導者のための講座・公開レッスンの講師も長年に及ぶ。元相愛大学「ピアノ教授法」「音楽学演習」講師。日本ショパン協会関西支部理事。



相愛大学在学中より三十数年にわたり故・佐藤允彦氏(ポーランド国家文化功労章受賞、ショパン作品の研究に多大な功績を残したショパン研究の第一人者)に教えを受け、独自の研究を続け現在に至る。ムジカノヴァ「实用ショパン講座」、同(別冊)「ショパンとその音楽」、レッスンの友での長期連載「ショパンの実像」等、ショパンに関する音楽雑誌への執筆も多い。

新刊「プロの常識・ピアノを教えるための全10章」、ピアノ曲集「ショパンへの道」(以上音楽之友社)「各駅停車の音楽人」(芸術現代社)連弾曲集「ピアノ・パートナー」(全音楽譜出版社)「ピーターラビットと学ぶはじめてのピアノ教本」(パナムジカ)等、著書多数。NHK ラジオ深夜便「ないとエッセー」においては七十数回にわたる出演の中で音楽と社会の接点を語り、広く共感を得ている。

■お問合せ・お申し込み先

日本ショパン協会 関西支部 事務局

カワイ梅田内 担当 松本・木村・吉田

TEL : 06-6345-8050 / FAX : 06-6345-8863

メール : chopin-kansai@kawai.co.jp

ホームページ : <http://chopin-kansai.com/>

ショパン協会関西支部 会員募集中

ショパンを愛する方ならどなたでもご入会いただけます。
詳細は事務局までお問い合わせくださいませ。

きりとり

■北村智恵 公開講座 申込書 <FAX 06-6345-8863>

申込日 年 月 日

お名前			
ご住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
区分	<input type="checkbox"/> ショパン協会会員 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 学生		

※記入された個人情報は、協会からの各種ご案内に使用いたします。法令で定める場合の他、お客様の承諾なしに別目的で使用いたしません。